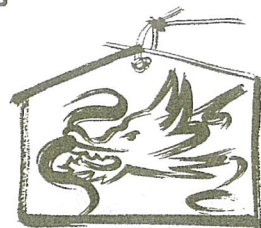




忠実であれ

新春企画



三重県津市・中勢林業株式会社

代表取締役社長 福島 寛(ひろしま ひろし)氏

訪問シリーズ第二九回は、はじめての同業者インタビュー。師走ご多用のなか、国産杉材の製材業を主体とし、多角化を進める経営者に「モノ作り」の理念をお伺いしました。

四つの部門で事業展開

Q、会社の概要をお教えください。

創業は昭和二十二年、二六年には製材業を開始し、三五年に先代が現在の社名で法人化しました。私自身は昭和五十一年から代表者として会社の経営にあたっています。

現在の会社は、製材・納材・加工を行う工場部門、住設機器・サッシ等を販売する新建材部門、木造住宅の設計・施工の建設部門、建設部門とタイアップした不動産部門の四分野に事業を展開し、従業員は三八名です。

付加価値向上と歩留まりアップ

Q、部門別の現況をお話してください。

あくまでも社業の中心は十三名でまわす工場部門です。基本的には受注生産で、自社製品は建築材主体に九割を地元の中堅工務店等に販売し、残りの一割を製品市場に出荷しています。逆に一部製品市場からの仕入れ品の販売もあります。

製材工場では、四三インチラインで国産材の回り縁・長押・鴨居等、四八インチラインで外材の梁・桁類、合わせて年間約六〇〇㎡を挽き、この六割が国産材です。外材はベイマツ主体、国産材の九五%以上が杉材です。

我が社の製品の特徴は、何といても付加価値の高い造作材の生産です。当然のことながら、国産材原木は八十年〜百年生の二番玉を主体に松阪地域で仕入れています。

また端材の付加価値を向上し、歩留まりを上げるため、平成九年にはフィンガージョイント機を設置し、短尺材の切り継ぎ加工に着手しました。これにより、等外品の木材チップ化は三分の一程度に激減し、集成加工した回り縁等の付加価値製品へと転

換できました。

良い製品を安く、早く、誠実に

Q、性能化時代、製材メーカーとしての心意気をお聞かせください。

製材レベルでまず手掛けなくてはならないことは、言うまでもなく「乾燥」です。当社は生産品の品質管理上、十年程前から丁寧に積み重ねた天然乾燥と人工乾燥を組み合わせた低コスト乾燥に取り組んでいます。乾燥施設も順次増設し、現在では十六㎡の乾燥機が四基フル稼働中です。

日頃メーカーとして心掛けていることは、創業以来の経営理念である「基本に忠実であれ」ということです。常にお客様の要望に應えるため、格付けひとつをとっても下から上へではなく、上級品から順次下級品へとグレイディングするように徹底指導しています。

この努力が認められ、平成元年、十年、十一年の三回にわたり、JAS製材品普及推進展示会において「農林水産大臣賞」

基本に

この人と30分

ぶらり訪問29



■プロフィール

昭和9年生まれの65歳、昭和51年より現職。趣味はゴルフ、モットーは「お客様に喜んでいただける物作り」と「マイペース」。好きな言葉は会社の経営理念でもある「基本に忠実であれ」。血液型O。

を受賞することができました。「良い製品を安く、早く、誠実に」をモットーに、社員が一丸となって当たり前の事を日々積み重ねた結果ですが、製材メーカーとして大きな誇りに思っています。

今後に向け、末端情報をつかむ

Q、他の部門はどんな事業内容ですか？

建設部門には現在六名のスタッフがいいます。これまでも大工・工務店を主たる取引先としてきましたので作業手順、木材の使い勝手を随分教えてもらいました。私自身、平面図を書いたり現場監督をしたりすることが好きでしたから、本業の延長で取り組みを始めました。

現実にはこだわりの家を年間三、四棟手掛ける程度ですが、建築材を扱うメーカーとして、今後の事業展開を考えるうえから建主の意向等流通末端の情報をつかむことは疎かにできません。

このほか木工事に関し、ゼネコンへの人材派遣も行なってお

り、少しずつ蓄積ができてきました。

重要度増す情報事業

Q、業界を取り巻く状況が厳しさを増すなか、県木連等の団体は何をなすべきでしょうか？

私自身、地域組合の理事しかお引き受けしていないので余り大きなことは言えませんが、ただ、一昔前ならば業者登録や行政とのパイプ役、補助金・低利融資の仲介やらで事足りました。しかし、商況がここまで来るとなかなかそうはいきません。

では何を、と言ってもすぐに思いつきませんが、現在三重県で数多くの木材業者の支援を得てここ何年か実施している木材PR活動等は、県木連が窓口となるべき大切な事だと思います。注意すべきことは、息長く継続するためにPR資金を上手に手当てする事です。

幸いにも三重県では、関係者のご理解をいただき、県内十四の原木市場と七カ所の製品市場の売方から販売額の〇・一%を

提出願ひ、これをPR事業に充当しています。この集金システムは私が提案したのですが、将来的には、買方の皆様からも拠出いただけることを望んでいます。団体が行う広報活動には、このような発想が日本全国に輪となって広がっていくことが必要かもしれませんね。

自信と誇りをもって

Q、最後に静岡の同業者に向けてひとこと。

品質確保促進法の施行で、今年には建築に関係する全ての業者が大きな転換期に直面することになるでしょう。しかし、「モノ作り」を基本とする製材業に奇手奇策はありません。まず乾燥を中心とした品質管理を徹底し、真に消費者の立場にたち、需要構造の変化に対応した喜ばれる製品の提供に全力を傾けるべきです。

健康住宅の追い風が吹くなか、クリーンで人にやさしい資材である木材の良さを自信と誇りをもってアピールしてゆこうではありませんか。(文責 編集室)



中勢林業株

「利は元にある」ストックヤードには優良丸太がズラリッ。